

REPORT

弦楽四重奏『クアルテット・インテグラ』訪問コンサート

去る7月3日、弦楽四重奏『クアルテット・インテグラ』の皆さん、世界的ピアニスト アレクサンドル・メルニコフさんをお招きし、訪問コンサートを開催しました。

当日は、伸寿苑を中心に150名ほどの入所・入院・利用者の方々とスタッフが集まり、日頃あまり聞く機会のない本格的なクラシック音楽に日常を忘れてひと時を過ごす事ができました。参加された入所者の中には、コンサートのためにお気に入りの洋服を着て参加された方もおり、音楽会の気分を味わってられました。コロナ禍以降、感染対策で途絶えていたこのような活動（ボランティアの受け入れや、訪問コンサートなどのイベント等）が与える影響を再認識するとともに、施設での生活に彩を加える事の大切さを改めて感じました。（支援相談員 坂本）



新任医師の紹介

田中 裕一（たなか ゆういち）

2014年から初期研修2年間、循環器内科9年間勤務してきました。リハビリテーション医療についてこれから勉強させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。



◆当院へのアクセス

JRの場合

「南小倉駅」（日豊本線・日田彦山線）より片野方面へ徒歩10分

バスの場合

「木町二丁目」バス停（セブンイレブン前）より小倉南区方面へ徒歩10分

都市高速の場合

「紫川IC」清水方面車線出口よりすぐ右側

カーナビでお越しの際は、

NAVI 北九州市小倉北区篠崎1丁目5-1と入力してください。



医療法人 共和会

小倉リハビリテーション病院／介護老人保健施設 伸寿苑／共和会地域リハビリテーションセンター

TEL.093-581-0668（代表） FAX.093-581-3319（共通）

〒803-0861福岡県北九州市小倉北区篠崎1丁目5-1 <http://www.kyouwakai.net> 共和会 検索

公式SNSで情報配信中！



facebook



Instagram

Careline

KYUWAKAI Press
「ケアライン」2025 夏号／共和会の新任部長に訊く

○発行
医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院／連携広報部 井上崇

Careline

KYUWAKAI Press ケアライン

2025

夏号

特集 共和会の新任部長に訊く

REPORT 弦楽四重奏『クアルテット・インテグラ』訪問コンサート

今年は異例の早い梅雨明けとなりました。共和会では4月に入職した新人職員達も職場に馴染んで参りました。今月はその「入職3ヶ月後振り返り研修」を予定していますが、様々な学びをしながら成長して頂きたいと願っています。

さて、今年は全国的にコロナ感染症も落ち着いていますが、法人内ではこれまで中止していた活動を再開しています。4月には小倉南区のタウンパレードに参加、地域貢献活動であるプロボノ活動はほぼ平常化されました。併設の老健施設では地域ボランティアの「フラワーアレンジの会」が再開し、施設内コンサートも行われています。未だ感染への不安が消えた訳ではありませんが、失われた5年を取り戻すべく地域との結びつきを大切に取組みを進めて参ります。

そうした中、今回のケアライン夏号は新年度に就任しましたリハビリテーション部長と看護部長のインタビュー記事を掲載しました。“地域に根差して60年…”の共和会マインドを引き継ぐ両部長が新任にあたっての思いを語っています。ご一読いただければ幸いです。

令和7年7月 医療法人共和会 連携広報部長 井上 崇



ブルーウィングもじ（門司区）

「共和会の新任部長に訊く」

今回のケアラインは本年度に新任部長となりました矢野浩二(リハビリテーション部長)と岡崎有加(看護部長)のお二人にインタビューを行い課題や抱負についてお聞きました。



本年度、部長に就任され3ヶ月が経ちました。慌ただしく過ぎたことと思いますが、これまでを振り返りどのような課題をお持ちですか。

その人らしさを取り戻すため、地域でのくらしを支援

矢野

地域の高齢化が進む中、私たちの対象は要介護高齢者や認知症の方が増えています。また、病気を複数抱える方や重介護が必要な方も多く、地域でのその人らしいくらしの実現に向けた支援が必要です。また家族介護の課題もありますが、何とか自宅で最後まで見ていきたいという家族の思いにいかに応えていくかも重要です。そのためには、支援のあり方やインフォーマル含めた地域連携のあり方が大事となってきます。一方で専門職の人材確保や育成も重要な課題です。私たちの取り組みの魅力を次世代にも伝えていきたいと思っています。

岡崎

2024年度診療報酬改定では、患者様一人ひとりの尊厳を守る医療の実現を目指しています。これは看護師や介護士にとっての基本的な姿勢でもあり、共和会の理念・基本的なマインドであります。こうしたことから病前には当たり前に行っていた生活行動への支援は、単なる機能訓練ではなく、“その人らしさ”を取り戻すための大切なプロセスとして捉え取り組んでいかねばならないと考えます。

当院の理念である「個人の尊重」とも深く重なるものであり、ケアの質の向上とその維持に真摯に取り組んでいきたいと考えています。



矢野 浩二(作業療法士)
鹿児島大学医療技術短期大学部作業療学科卒業
平成14年医療法人共和会入職

岡崎 有加(看護師)
社会保険紀南看護専門学校卒業
産業医科大学大学院医学研究科看護学専攻(生活支援看護学領域)修了
平成22年医療法人共和会入職



これから共和会に求めること…目指すべきこと、抱負について

多職種連携、専門職としての自覚と責任

矢野

多職種連携、チームアプローチ…というのが私どもの強みだと思います。この強みをいかに発展させられるか、質を高めるための方策を考えていきたいと思っています。そのためにはリハビリテーションマインドを礎として、若い職員たちは勿論、若手を支える中堅職員、そして管理職と階層的な育成をしていかねばならないと思います。

岡崎

どの職種、新入職や役職であっても全員が共通の方針や理念に基づいて自律的に行動することが必要だと思っています。職種の強みを生かして支えあい、業務を進めることには良い面が多いですが、役割や責任が曖昧になる恐れもあります。専門職としての自覚と責任を持ち、自立した行動ができる職員であることを期待しています。

地域に足を運ぶ…プロボノ活動への参加

矢野

多職種協働が上手くいくいかないかは、それ以前に各職種がしっかりと自分たちの役割を担えるかが大前提だと思います。ここ数年は様々な活動がコロナ禍で中断せざるを得ない状況で、今一度学びということに関して再開していかねばならないと思います。そして、私たちの基本姿勢は地域に足を運び、自らの目で確かめるということであり、医療・リハビリテーション・ケアが一体となり、患者様の地域での暮らしの実現に向けて取り組んでいく必要があると思います。直接業務でいうと退院後訪問等で地域とのつながり支援の充実を、また地域づくりの観点では職員皆で取り組むプロボノ活動等を推進していきたいと思っています。

岡崎

プロボノ活動に関しては看護・介護が遅れているので、まずは管理職を中心に地域へ出かけていくことを推進し全体に進めていきたいと思っています。(地域で)見たり感じたりすることはケア場面において大変重要なことなので積極的に取り組んでいきたいと思っています。またこの数年で共和会内ではマンマーやネパールといった外国人職員が増えて参りました。彼女らは職場にも地域社会にも馴染み、今では患者様から十分な信頼を得るまでになってきました。多様な職種、人材が共に協働できるよう、スタッフ一人ひとりがやりがいをもって成長し、患者様にとって最善の療養環境を整えることが出来るよう更に努めていきたいと思っています。

最後にこれまで歴任されてきた部長達の想いを受け継ぎ、次世代につなげていかねばならないと思います。共和会の理念と役割を大切にしていきながら務めて参りますのでどうかよろしくお願いいたします。

聞き手: 井上崇(共和会連携広報部長)